裁判員経験者の意見交換会議事概要

仙台地方裁判所

日 時	平成29年1月17日(火)午後2時20分～午後4時20分
場 所	仙台地方裁判所第2会議室(6階)
出席者等	司 会 者 加 藤 亮(仙台地裁第1刑事部総括判事) 裁 判 官 小 池 健 治(仙台地裁第2刑事部総括判事) 検 察 官 高 山 由 子(仙台地検検察官) 弁 護 士 松 倉 健 介(仙台弁護士会所属) 裁判員経験者 3人(以下「1番」等と表記) 報 道 機 関 5人(河北新報社, 宮城テレビ放送, 東日本放送, 共同通信社, 時事通信社)

1. 本意見交換会の趣旨説明等

司会者

本日の司会を務めます仙台地方裁判所第1刑事部の裁判官の加藤と申します。どうぞよろしくお願いたします。

裁判員制度も平成21年5月から始まりまして、施行から8年目を迎えることになりました。仙台地方裁判所では、県民の方々の高い意識と誠実な姿勢に支えられ、概ね安定的に裁判員裁判が運営されているものと認識しております。この間、当庁におきましても約1,030名の裁判員、補充裁判員の皆様に御参加いただきました。その中で、本日は比較的最近の裁判員裁判に参加されました3名の裁判員経験者の方をお招きしております。

皆様の裁判員裁判を経験されての様々な御意見や御感想につきましては、今後の裁判員裁判の運用をより良いものとするための貴重な材料となります。我々法曹三者としましては、皆様の御意見を真摯に受け止めて、今後の運用改善に生かしていきたいと考えております。また、皆様の御意見は、これから裁判員裁判に参加される方にとっても、とても参考になると思います。御参加いただくための力強い後押しになると思われまますので、率直な御意見、御感想をお聞かせいただきたいと思います。

本日の意見交換会のテーマは大きく分けて3つあります。1つ目は審理の分かりやすさについて、2つ目は量刑評議について、3つ目は裁判員を務める上での負担感についてです。

2. 自己紹介

司会者

この意見交換会には、検察庁、弁護士会、裁判所から1名ずつ法曹関係者が参加しております。それぞれのお立場で、裁判員経験者の皆様からどのような御意見、御感想をいただけるのか大きな関心をお持ちのことと思います。まず、法曹関係者の方々から、簡単に自己紹介をお願いしたいと思います。

高山検察官

検事の高山と申します。よろしくお願ひいたします。

松倉弁護士

弁護士の松倉と申します。よろしくお願ひいたします。

小池裁判官

仙台地方裁判所第2刑事部の小池でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

司会者

それでは、初めに、経験者の皆様から、お一人ずつ裁判員裁判に参加されての全般的な御感想などを簡単にお話しただければと思います。

1番の方ですが、昨年6月に行われた殺人事件を担当されました。シングルマザーだった被告人が当時3歳だった長男と無理心中を凶って一緒に死のうと考えて、堤防に係留されていた船の上から、長男を抱きかかえて海に飛び込み、溺水による窒息のため死亡させたという事案でした。事実関係については大きな争いはありませんでしたが、量刑が問題となりました。審理日数は6日でした。

1番

まず、率直な感想は、母親の立場から言いますと、自分のお子さんを死に至らしめたという、「これも殺人事件になるのだな。」と思いました。被告人が若く、私の娘くらいでしたので、被告人のことを一番に考えて、皆さんで話をさせていただきました。

司会者

今お話しになられたのは、つまり「心中」ということですが、罪としては小さなお子さんを殺したということで、「殺人」になってしまうということに気付かされたということでしょうか。

1番

そうですね。本人が自分のお子さんを手にかけるということが、とっさに起きたことなのかなと、いろいろ考えさせられることはありました。

司会者

続きまして、2番及び3番の方ですが、お二人は昨年8月初旬に行われた強姦致傷、脅迫事件を担当されました。被告人が、ラブホテルにおいて、被害女性の身体に覆い被さり、手首付近等を押さえつけ、裸体をスマートフォンで撮影して、それをばらまくと脅して性交し、処女膜裂傷の傷害を負わせたという強姦致傷罪、また、後日、被害女性の携帯電話に電話して、裸体写真を自宅や勤務先等に送付すると脅迫したという事案でした。事実関係が争われ、強姦致傷罪につきましては、被害者の同意があったのか、性交までしたのか否か、処女膜裂傷の傷害を負わせたのか否か、そういった様々な点が争点になり、脅迫罪につきましては、脅迫罪に当たらないと言って否認していたということで、量刑のみならず犯罪の成立が争点となった事件でした。被害女性の知人や医師の証人尋問もあり、かなり証人尋問が長かったかなという印象です。審理日数は6日でした。

2番

率直な意見から言いますと、一つ一つの出来事が全て悪いように取られると罪になっていくのだなということを実感しました。自分たちが自分の身を守るために相手に対してやっていたことを、相手の意に沿わないものだとすれば、それが一つの罪につながり、また、自分を守ろうとしてやったことが罪になり、というふうに、簡単に一つのことを起こして、それですぐに罰を与えられるものではないのだなということを実感しました。あと、裁判員候補者に挙がった段階でドキドキ感があり、自分の中で拭えなくて、車を運転するのにもすごくドキドキして、裁判員をする初日もすごいドキドキ感がありました。

司会者

今のお話は、裁判員等の選任手続期日当日に裁判所に向けて車を運転して来るときにも、事故を起こしてしまえば職場にも迷惑がかかるのでドキドキして、平常心で運転して来ることができなかったということですか。

2番

はい。裁判所の封筒を見た段階で、自分が何か悪いことをしたのではないかということを実感しました。特に、一昨年、年末くらいに、裁判員候補者になりましたという最初の封筒が来たときに、それだけで、自分は何をしたのだろうというのが第一印象でした。その後、封筒が来まして、選任手続の会場に来てください、もしかすると裁判員になるかもしれませんよと言われたその日には、自分はドキドキ感を拭えなくて、いつもは平常心で運転しているつもりなのですが、家族に裁判所の入口まで送ってもらいました。抽選で裁判員になったというときには、ドキドキ感が拭えないまま会場に案内され、そして、こういう事案ですというお話を受けたのですが、やはりそのときもドキドキ感が拭えなくて、8月に裁判員として仕事をしてくださいと言われるまで、二、三日間は仕事場に行っても自分でよいのだろうかということがずっと付きまとっていたというのが事実で

す。

司会者

毎年、前年の秋頃に裁判員候補者名簿を調製して、裁判員候補者の方に、候補者に選ばれましたという御案内をさせていただいております。今年も御案内させていただいているのですけれども、多くの方が同じような御感想を持たれているかと思えます。もし可能であれば、後ほど、そのような方に向けて、ドキドキする必要はないよというようなメッセージを発していただければと思っています。

3番

強姦罪ということで案内が来ましたが、実際に携わってみますと、被害者が自分から知らない男性の車に乗ったような感じがして、果たして、それで強姦罪が成り立つのかなというのが第一印象でした。また、2番の方がおっしゃっていましたが、裁判員候補者になりましたという封筒を見ただけで、「あれ、俺何か悪いことしたかな。」というのが第一印象ですので、その辺も何か改善する余地があればお願いしたいと思えます。私は、ドキドキ感は自覚していなかったのですが、裁判員裁判が始まる直前になって胃が痛くなりまして、ちょうど土曜日は裁判所が休みだったものですから、午前中にお医者さんに行き、胃カメラを飲まされました。胃カメラの写真を見ると、胃が真っ赤になっていました。自分では本当に意識していないのですが、体の方が感じてしまったのかなというふうには思いました。それに、法廷で座る椅子が高級なものですから、腰が痛くなりました。何か、体に変調が来ていました。

司会者

体の変調につきましては、今現在は大丈夫ですか。

3番

今でもまだ薬は飲んでいます。

司会者

今日は緊張しておられませんか。大丈夫ですか。

3番

今日はそれほど緊張していないから大丈夫です。

3. 審理の分かりやすさについて

司会者

それでは、最初のテーマである審理の分かりやすさについて、お話を進めさせ

ていただきます。

テーマとしては大きいですが、①検察官，弁護人の冒頭陳述という当事者の主張の部分，それが終わった後に，裁判所の方で公判前整理手続の結果顕出の手続があり，それに引き続きまして，②証拠書類，証人尋問，被告人質問の証拠調べの部分，最後にまた，③論告，弁論という当事者の主張の部分の3つに分かれます。初めに，冒頭陳述の部分についてお話を伺いたいと思います。冒頭陳述は，検察官，弁護人が，これからこういったことを立証していきます，この辺が争点ですのでこの辺に着目してください，というような形で立証のポイントを示していくのですが，事実には争いがある事件ですと，この辺の証拠を見て有罪かどうか判断してくださいと，あるいは，量刑がポイントですと，この辺に着目してくださいというようなことを話されたと思いますが，それについての御意見，御感想はいかがでしたでしょうか。例えば，法廷に入っていきなり冒頭陳述があって理解できなかった，声が小さかった，字が小さかったなど，何でも構いません。

1 番

被告人がお子さんを死に至らしめたということは認めていたので，そのお子さんの生前のお写真が証拠で出たりなどすると，やはり，お母さんに似ているのかなど，いろいろな感情も入ってしまいながら，ずっとお話を伺っていました。被告人に話を聞いても，余りお返事がなく，内容を言っても「分かりません。」，「分かりません。」ということで，その場でお話ししたことしか審理の内容としては扱えないということでしたので，もっともっと被告人がお話をしてくれて，もっとさらけ出してくれると良いと思いました。私たちの推測の域だけではなかなか審理できない部分というのがありました。一言も漏らさないように聞きたいなという想いで，私は前のめりになりながら，お話を一生懸命伺っていましたけれども，被告人が本当に多くを語らなかったので，その部分では，もっともっと被告人が自分の身の内のお話をしていただけたら良かったかなということはありません。あと，家族間でいろいろあったのかなというような自分の想い，裁判員になった皆さんもそう感じたと思うのですけれども，本人がしゃべらないので，本当にその部分は，そこでは採用できないという内容だったかと思います。

司会者

付け加えて伺いたいのですが，今のお話は証拠調べに入ってからのお話で，証拠調べに入る前に，検察官，弁護人が，予告と言いますか，これからこういったことをしますよみたいなことを，それぞれ10分，15分くらいお話しになったと思いますが，それについて，まずその話を聞いて，どの辺りに焦点を当てて聞いたら良いのかということは理解できましたか。

1 番

お話が早かったということもありますし，初めての経験なので，分からないことも結構ありました。内容が難しい事案だったので，一つ一つ自分で消化という

か、憶えながら伺っていました。検察官、弁護人で見方が違うし、話は流れるように進むので。

司会者

自分の経験でも、最初の冒頭陳述というのは、よほどうまくやらないと、頭が真っ白な中で進んでいく手続だったりします。理解しにくい部分があったのでしょいかね。

1 番

そうですね。内容的にはそれほど難しい事案ではなかったのではないかと思いますのですが、ただ、冒頭にスーっと話をさせていただく中で、一つ一つ自分の中で消化していくのですが、流れというか、割とサーっという感じでお話をさせていただくので、その辺がなかなか難しいところがあり、「ああそうなんだ。」、「ああそうなんだ。」と一つ一つ思いながら、お話は伺っていました。

司会者

お話の仕方が上手過ぎるとか、あるいは、強調すべきポイントの強調がなかったとかですかね。

1 番

やはり立場によって見方が違うと思うので、「ああ、そういうふうに言われるのだな。」と。お話が上手と言えれば上手で、流れるようにスーっと言っていたので、あっ、という感じで伺うという状態だったと思います。

2 番

私たちのときには、争点を簡単にまとめて表した紙を渡されて、検察官も弁護人も、それぞれの立場で、それを使って説明があったと思います。そのときに緊張して見ていたということもあるのですが、とりあえず紙になっていたのも、それを使って、それぞれ言いたいことが書かれているということは理解しようと思えました。ただ、言葉がよく分からないとか、その後、部屋に戻ってから、裁判長から「言葉は分かりましたか。」などいろいろ聞いていただいたので、その辺は具体的に理解できたのですが、始まる前に事前の知識がなかったこともあって、意味の分からない言葉が並ぶと少し難しいなと感じました。説明しようという気持ちはすごく伝わってきたので、弁護人が、被告人を無罪にしたいというところはここだということは伝わってきましたし、検察官が、ここは有罪にしたいのだというところは分かりやすく話していただいたと思います。ただ、分からない言葉は、もう少し砕けた言葉、普段使うような分かりやすい言葉になっていると、初めて読む者も少し理解しやすいかなと感じました。

松倉弁護士

例えば、どのような言葉でしたか。

2番

例えば、「被告人」は、普通に大人が考えれば分かります。自分たちのような50歳代や40歳代など、ある程度社会的な知識を持った方々が読むには、それほど困ることはないと思いますが、裁判員は、20歳以上の方から選ばれるので、もっと若い方が裁判員になった場合、もっとも、若い方も法の知識を持った方であれば悩むこともなくポンといくと思うのですが、いざ、そういうことに全然関わってこなかった学生が見て、「『被告人』って何。どっちのことだっけ。『被害者』はどっちのことだっけ。」と。「罪を犯した人」とか、「被害に遭った人」とか、ちょっとしたフレーズだと思うのですが、書いてあると、「あっ、そうだ、そうだ、こっちだよ。この人が罪に問われている人だよ。」というように、分かりやすいのではないかなと。「争点」や「論点」と言っても、「食い違っているのはここですよ。」みたいな一言があると、「あっ、食い違いはここなのね。」とすぐに分かるような気がしたので、そういった言葉のニュアンスを分かりやすくすると、パッと見ても分かりやすいのかなと感じました。どの分野でもそうだと思うのですが、自分たちが日常で使っている言葉というのは、必ずしもみんなの言う日常の言葉ではないと思うのですね。なので、皆さんに裁判員をしてもらうのであれば、誰が聞いても、誰が見ても、もう少し若い人が読んでも、「こんなことも分からないのか。」と言われるかもしれませんが、そういったところをもう少し砕けた言葉にしてあげると、もっと入りやすいのかなという気はしました。

3番

最初に感じたのは、被害者の声が小さくて、なかなか聞き取れなかったということです。幸い、他の裁判員に若い方がいて全部メモしてくれていたのですが、私は耳が遠くなっているので、ほとんど聞き取れなかったです。また、被害者の言い方と被告人の言い方の違いです。被告人は裁判慣れしているみたいな感じでしたから、どこまでが本当のことなのか、嘘のことなのか、ちょっとつかめなかった気はします。

司会者

証人、被告人のお話について御説明いただきましたが、それを御理解いただくために、まず、検察官、弁護人が、プレゼンテーションのような形で冒頭陳述をします。ここに着目して聞いてください、見てくださいというようなことは伝わりましたか。

3番

私は、一応全体の流れとして聞いていたのですが、大体要点は分かりました。

小池裁判官

冒頭陳述で、検察官、弁護人が、それぞれの立場から、ここを見てほしいみたいなことを言ったと思います。その後の証拠調べの御感想も今ありましたが、証拠調べを聞いて、最初の説明で言っていたとおりに、ここが問題だったんだとか、ここが争点だったんだとか、最初の説明と合っていたでしょうか。

2番

結構大きなところは、しっかりと合っていたと思います。ただ、先ほど1番の方がおっしゃったように、その方が話した事実しか証拠にならない、ドラマなどではいろいろな推測で動くのですが、「絶対に推測は駄目です。」と何度も念を押されまして、そういうときに、もっと細かいところがあるんだなど。一つ一つそこを潰していくわけではありませんが、大きな争点や論点は分かったのですが、もっとその中の細かいところも見えていかないといけないというのは、結構辛いなと思いました。

3番

私を感じたところでは、かみ合っていました。

司会者

お話を伺っているうちに証拠調べの話も出てきましたので、その点を含めてお話を伺います。先ほど、分かりにくい部分があったというお話がありました。一つは声の小ささということでしたが、もう一つ、1番の方からは、被告人がなかなか話してくれなかったというお話がありました。それは被告人のキャラクターなのでしょうか。それとも発問している方の質問の内容に問題があるのでしょうか。何かお感じになったことがありますか。1番の方、いかがでしょうか。

1番

被告人は質問の内容は分かっていたと思いますが、余りしゃべりたくなかったんじゃないかと思います。

司会者

質問を繰り返しているのはなぜなのか、疑問に思うことはありませんでしたか。

1番

いくらいろいろな質問をしても、被告人が「分かりません。」、「分かりません。」、「分かりません。」と言うので、質問を繰り返していたのだと思います。裁判官も、「どこの何が分からないのでしょうか。」と質問されるぐらいでしたが、それに対する被告人の答えも何か曖昧で、返事がありませんでした。

司会者

弁護人や検察官が何を聞こうとしているのかということは伝わりましたか。

1 番

分かりました。

司会者

そもそも、弁護人や検察官が、何を質問しようとしているのかについては分かりましたでしょうか。2番の方、いかがですか。

2 番

私が担当した事件の被害者も、声が小さく、裁判長から「もう少し大きな声でお話をしてください。」と言われていました。1番の方が担当された事件の被告人のように全く話さないということはなく、答えてはいたので、一生懸命聴き取ってメモを取ろうとしたのですが、やはり声の小ささが気になりました。

司会者

2番、3番の方が担当された事件は、争点がたくさんあり、証人尋問や被告人質問も多かったのですが、質問の意図が分かりにくかったということはありませんでしたか。

3 番

質問の意味は大体的み込みましたが、なぜ、夜中に女性が誘いに乗って自分から車に乗らなければならないのだろう、ということに大分疑問を持ちました。夜中になぜだろう、というのが一番先に考えたことでした。

司会者

その疑問点は、どなたか、あるいは御自身で質問をして解消されましたか。

3 番

いいえ。私の中では解決していませんね…。

司会者

2番、3番の方が担当された事件の証人尋問、被告人質問は時系列に沿って行われたのでしょうか。

小池裁判官

通常どおりの、時系列に沿った流れだったと思います。

司会者

証人尋問や被告人質問で、御自身で質問されたということはありませんでした

か。

2番

私は証人に質問をしました。最初は何を聞いてよいのか分からなかったのですが、休憩時間に疑問に思ったことをお話ししていたら、裁判長や裁判官から、「こういう所で聞いてみるのも良い経験ですよ。」とアドバイスをいただいたので、質問させてもらいました。私が質問した証人はお医者さんだったのですが、誠実に答えていただいたので、良かったと思いました。

司会者

お医者さんということですが、専門用語など分かりにくい言葉はありませんでしたか。

2番

「処女膜裂傷」について、それは何度も話題になっていたのですが、自分たちも女性ですし、そのお話は分かりました。私が質問をしたお医者さんは、証人として、しっかりと答えてあげなければいけないと分かっていたらっしゃる方で、曖昧な答え方はせず、納得のいく答え方をされていました。

司会者

証人尋問や被告人質問の中で、検察官や弁護人がなぜそのような質問をするのか、分かりにくいということはありましたか。

3番

言葉的に理解できないということはありませんでしたが、被告人質問について、被告人の答えが常に一つで、弁護人に対しても検察官に対しても同じように答えるので、そのことについて、自分としては「うまいな。」と感心しました。

松倉弁護士

「うまいな。」というのはどういう感覚でしょうか。

3番

場慣れしていると感じました。

松倉弁護士

後で矛盾していると言われないように、ちゃんとやっているな、ということですか。

3番

そうです。そのように感じました。

司会者

冒頭陳述の後，証拠調べをして，論告や弁論ということで，最後に検察官や弁護人が主張をしますが，その論告や弁論についてはどうでしたでしょうか。裁判員の皆さんによく伝えられていたでしょうか。証拠調べの結果を受けて分かりやすくまとめられていたでしょうか。被告人質問の結果はうまく反映されていたでしょうか。

3番

前もって書面を提出してもらっていたので，余り印象に残っていません。

司会者

私自身は，冒頭陳述や論告や弁論の時に書面を見ないこともあるのですが，やはり書面があった方が分かりやすいということがあるのでしょうか。1番の方，いかがでしょうか。

1番

公判の中で，こういう事件でこうこうだというお話の流れでたどってきたものと，最終点の論告のまとめとの相違はありませんでした。

2番

私も1番の方と同じように理解できました。ただ，そのときに，弁護人が被害者の最初の調書など，たくさんの調書について織り込んできたので，弁護人は，事細かにいろいろな調書を読み込んでいるんだなと感じました。弁論の内容よりもそのことに感心しました。

松倉弁護士

弁論の中で，調書など他の供述内容の引用が頻繁に出てきたということでしょうか。

2番

そうです。被害者に，「このときに，あなたはこのようなおっしゃっていますね。でも，この文面ではこうなっているのはどうしてですか。」という感じで指摘していて，矛盾点を探しているようでした。弁護人が被告人をどうしたいと思っているのか，弁護人の気持ちはよく分かりました。

松倉弁護士

今の話ですと，それは尋問のときということでしょうか。

2番

尋問だったと思うのですが…。

小池裁判官

補足しますと、この事件は、尋問の中でも、事件の経緯や事後のことについて被害者の供述が変遷していることが問題となっていました。また、事件の関係者とのメールのやりとりがたくさんあり、このときにこんなメールを出しているとか、弁護人が時系列でいろいろな点から主張されていました。それを弁論でも指摘していたというものだったと思います。そのために弁論が長くなっていましたが、分かりやすさの点ではどうでしたでしょうか。

2番

弁論は長かったですが、分かりやすかったです。

司会者

他に、証人尋問や被告人質問で気づいた点はありませんか。時系列で、時間の流れに沿って聞いていくことが多いのですが、核心から聞いてほしい、ということはありませんでしたか。

(発言なし)

高山検察官

証人尋問や被告人質問では、弁護人や検察官がまず質問をして、その後に補充質問をすることが多いと思うのですが、検察官や弁護人の尋問のときに、裁判員の方々が気にされている点について、ちゃんと聞いているのかどうかという点について伺いたいと思います。なぜここを聞かないんだろうと思いながら聴いていらっしまったのか、気になっていることを聞いてくれたな、と思っていただけたのか、どのような印象をお持ちになったのでしょうか。

司会者

3番の方、いかがですか。質問のポイントが合っていないな、ということはありませんでしたか。

3番

ポイントが合っていないなと感じたことはありませんでした。弁護人の書面の作り方がうまいな、という印象だけでした。

司会者

1番の方はいかがですか。

1番

ちゃんと聞いてくださっていたと思います。

2番

私は、こういうことをお話の論点として聴いていけばいいんだということで、初めはメモを取らないつもりで聴き始めたのですが、途中から、これはメモを取らないと、後で自分たちの話合いができないんだということに気づき、それからメモを取るようになりました。いくら「メモを取ってもいいですよ。」と言われていても、最初は何から始まるのかというのがあって…。最初に論点についてプレゼンの紙をいただいているけど、2回目や3回目に当たれば、ここは絶対に論点になるだろうということが自分の中でも分かってくると思うのですが、初めは分からず、話を聴くのが精一杯でした。話を聴く中で、「これが論点なんだ、ここを争っているんだ、自分たちで考えなければならぬんだ。」と感じて、後手に回った感じでした。

小池裁判官

ある証人、あるいは被告人に質問するとき、この証人はこの辺が問題となりそうなのでここを聴いてほしいとか、弁護人が冒頭陳述で指摘しているこの点の証人だということを、もっと丁寧に事前に指摘していたら、もう少し聴きやすかったということはありませんか。

2番

それはあると思います。どんな方かというのは聞いていたのですが、お医者さんだったらこういうことを聞くのだろうかというのは分かったのですが、お母さんやいろいろな証人がいらっしやったときに、何を聞くのかというのはその場でしからなかったもので、もっと具体的にこんなことを聞く予定なんですというのが分かっていたら、どんな話が出るだろうか、自分たちもこんなことを聞きたいなということを休憩時間に話せたのではないかと思います。

松倉弁護士

尋問事項書をお渡しすることもあるのですが、2番の方が経験された事件では配られなかったのでしょうか。

2番

そういうのはなかったと思います。

小池裁判官

尋問事項がざっくりと書いてあるメモ書き程度のものは置いてあったと思います。

松倉弁護士

それだけだと分かりにくかったということでしょうか。

2番

はい。何をするのか大雑把なものなので。どうしても聞きたいという欲求に駆られて質問をする人もいるとは思いますが、質問をしてもいいよと言われても、やはり、こんなことを聞いては恥ずかしいのではとか、相手にどんな印象をもたれるかという不安要素がつきまとうので、ちょっと難しいかなと思います。具体的に相手の答えを聞いてみて、もっと聞きたいなというところがあったりするのですが、その辺が具体的であれば、それなりの心構えで質問したい人はいると思います。

司会者

メモを手元に渡されるタイミングは、証人尋問の直前だったと思うのですが、もっと早く欲しかったということはあるでしょうか。

2番

きっと早くもらっても、何をどうしていいのか分からなかったと思いますが、休憩時間を取ってもらっていたので、その休憩時間に他の裁判員の皆さんにたくさんフォローしてもらえたので、それはありがたかったです。

司会者

裁判官としては、そういった書面をいただくことの危険性についても含めて考えているのですが、今日は重要な御指摘をいただきましたので検討していかなければならないところだと思っております。

4. 量刑評議について

司会者

次に量刑評議について御意見を賜りたいと思います。これまでは量刑評議に当たって判断する材料である、当事者の主張、証拠調べについてお話をお伺いしたのですが、どのような刑にするのが相当か、有罪となった場合にはその量刑も評議していかなければなりません。日常生活の中で経験することがないので、裁判所の方から、量刑の基本的な考え方についての説明をしたと思うのですが、覚えていらっしゃるでしょうか。行為責任主義という言葉を使っていたかもしれませんが、1番の方、いかがでしょうか。

1番

求刑は8年だったと思います。無理心中の際に、お子さんを亡くしてしまった。それで8年というのが重いのか軽いのか、初め分からなかったのですが、今まで

の流れをいろいろ教えていただきながら、皆さんで考えていきました。被告人の、これから生きていく、送っていく人生をみんなで考えました。知らない人のことをここまで考えたことはありませんでしたが、本当にみんなで親身になって量刑を審理していきました。

司会者

先ほど1番の方からお話があったように、証拠でないものは事実認定には使えないというルールを理解していただいた上で、証拠調べから事実の認定をし、量刑を考えていくということ、犯情すなわち行為、結果、動機で大枠を決め、それ以外は一般情状で調整の要素とする、というような説明をしたかと思います。量刑判断の説明について御理解いただけましたか。また、そういう話だけでは分かりにくいので、感覚をつかんでもらうために、量刑検索システムのグラフを見ていただいたと思いますが、覚えていらっしゃるでしょうか。グラフについては理解できましたか。

2番

検索システムを、画面で見せてもらいました。私たちも、何を基準にして量刑が決まるのか疑問でしたが、微妙なもので変わるという事例を見せていただき、「この事案の場合にはこれぐらいの刑が多いんです。」とか、「これにこれが加わるともう少し変わってきます。」という説明がありました。「ただ、これはあくまでもこれまでの結果なので、増やすのも減らすのも、皆さんで考えてください。」というお話でした。言葉なども詳しく教えていただいたので、そこから量刑を考えていきました。

司会者

量刑の位置付けを考えたということでしょうか。

2番

そうです。

司会者

先ほど1番の方がおっしゃったのも、無理心中の事案でグラフに出てくる傾向の、量刑傾向のどの辺に位置付けられるか、ということをみんなで考えたということでしょうか。

1番

そうです。

司会者

3番の方、いかがでしょうか。

3番

まず、量刑を素人が考えてよいのかと思いました。量刑を決めるときは前科も加味するということ、裁判官から聞いて初めて知りました。出所して間もない時期に事件を起こしてしまったということで、そのことも考えて量刑というものを決めなければならないという、責任の重さを感じました。

司会者

前科の話も出ましたが、量刑というのは法律を当てはめた結果ですので、直前に前科があったら、累犯加重ということもあります。そうすると法律上重くしなければならぬのですが、日常では出てこない話です。裁判官が行為責任主義を踏まえた上で、行為態様の位置付けについて説明をしたと思います。評議の中で事実認定をして、その行為態様の位置付けを考えていったと思いますが、量刑評議の進め方について、疑問に思ったり、違和感があったということはありませんでしたか。

3番

量刑を決めるのにも裁判所のやり方があると思うのですが、1番高いものと低いものを除いて、あとは多数決で決めるという合理的なやり方だったので、感心しましたし、私は納得しました。

1番

私が担当した事件では、被告人がお子さんを連れて交番に駆け込んで自首した、世間の明るみに出ていないということで自首が成立したので、その部分を量刑で配慮したという形になりました。

司会者

論告や弁論の中で、検察官や弁護人から、この点を評議してくださいと主張されたと思うのですが、弁護人の主張は量刑に直結するものだったでしょうか。

1番

実刑か執行猶予を付けるか、みんなで話し合いをしたと思います。3年以下でないと執行猶予が付けられないという説明を受けました。実刑だとそのまま刑務所に行き、執行猶予が付くと社会に戻り、これからの生活があるということで、これから被告人自身をどうしたら良いのかみんなで審理しました。

小池裁判官

裁判官から、「被告人がどのような行為をしたのか、今回の行為がどのように危険な結果をもたらしたのか、行為に着目しましょう。」という説明がどこかの時点でされたと思うのですが、その説明について、なるほどなと思ったのか、よ

く分からないけれどそういうものかと思ったのか、全然分からなかったとか、率直なところをお聞きしたいのですが、いかがでしょうか。先ほど、自首というお話もありましたが、犯罪行為がどれくらい重いか、どうやって考えるのか、裁判官の説明でなるほどなと思ったのか。正直どのように思われましたか。

3番

裁判官から説明を受けて、私はなるほどなと納得できたのですが、率直に言えば、やはり人が人を裁くというのが正直言って怖かった、我々素人が裁いてよいのかという気持ちはありました。

2番

被告人のやった行為、再犯であること、刑務所に入っていたにもかかわらず行っていること、ここでまた何年か刑務所に入らなければならないのだろうと思うときに、求刑が妥当なのか、被害者と加害者の立場から考えてこの量刑は妥当なのか、被告人の責任をどこまで問うか自分たちで決めなければならないという点では重いものがありました。評議の中でいろいろな考えを聞いて、一人で決めたのではなく、結果的にみんなで決めたということで自分自身を落ち着かせました。今回は死に関するものではありませんでしたが、死に関わることの量刑を決めるときは複雑なんだろうと思います。

司会者

被告人の犯した犯罪にふさわしい刑罰を科す、というルールを示したことについてはいかがですか。負担感が軽くなったりはしなかったでしょうか。

3番

取決めがあることを聞いたときには納得しました。

司会者

1番の方は殺人事件を担当されたのですが、いかがでしょうか。

1番

行為責任主義の説明があり、自分の犯した罪の責任を負っていくという考え方を知りました。そのときの感情で起こしたことであっても、たとえ自分の子どもであっても一人の人間を殺してしまったことで罪になる、一緒に死のうとした心中という形でも刑を与えなければならない、世の中の全て、ルールに則って行為責任を負うのだということは、よく分かりました。

松倉弁護士

1番の方にお聞きしたいのですが、実刑か、執行猶予かの争いになっていた事案だったということですが、5年とか6年とかの数字じゃなくて、刑務所に入れ

るか入れないかが量刑で問題になる，という認識を持ったのはどの段階でしょうか。

1 番

裁判を進めていく中で求刑が8年でしたので，求刑8年はどうなのかと思いました。本人は死のうという思いで死ねなかったので，執行猶予を付けた方が良いのか実刑が良いのか悩みました。被告人のこれから先の人生を考えたときに，本人がもう少しいろいろ考える時間や見つめ直す時間があった方が良いのか，執行猶予を付けた方が良いのか，皆さんで話し合いました。冒頭陳述では，弁護人は執行猶予とは言っていないのですが，全体として執行猶予を求めている事案だと分かりました。

松倉弁護士

裁判官から，執行猶予というのはこのような制度であるという説明をどの段階で受けましたか。

1 番

弁論が終わって，量刑評議に入ってからです。

松倉弁護士

先ほどお話されていたことを考える上で，被告人質問で聞いておけば良かったなと後から思ったことなどはありませんでしたか。

1 番

後になって聞いておけば良かったということは特にありませんでした。被告人の勤務先の上司の方からは出頭できないということでお手紙が提出されましたし，お子さんが通っていた保育園の先生のお話とか詳しいものがあり，それらを聞いたので，評議はできました。

松倉弁護士

被告人を刑務所に入れるかどうかも考えなければならないということを，例えば弁護人が，冒頭陳述で，「執行猶予が妥当だと考えています。」と述べて，執行猶予の制度について最初の段階で説明を聞いていたら，その後の，論告の前にある証人尋問や被告人質問で，もっと別の観点から質問ができたのではないかということはありませんか。感覚でよろしいのですが。

1 番

それはなかったと思います。評議をしていく中で量刑を考えていくときに，本人が自首しているということを話しているうちに，執行猶予というのはこういうものですという説明がありました。日常のニュースで，麻薬の事件などで執行猶

予が付いたという話を耳にすることはあっても、実際の事件で執行猶予というものが分からなかったのですが、説明を聞いて「なるほどな。」という感じでした。今回、これから生きていく人生を、被告人がどういうふうに準備していくのか、社会に放り出すのか、どういうふうに考えていったら良いのかという思いでした。

司会者

1 番の方が担当された事件は、冒頭陳述では出てこなかったのですが、審理の流れそのものから執行猶予を目指しているのが伝わってくる事案でした。

5. 裁判員を務める上での負担感について

司会者

これまでいただいたお話の中でも何度か出ていたところですが、裁判員を務める上での負担感について伺っていきたいと思います。ドキドキ感や胃痛といったお話もありましたが、事件の性質から来る負担感や仕事の調整に当たっての負担感、その他、審理が長すぎる、といった負担等について伺えればと思います。1 番の方、いかがでしょうか。

1 番

選任までの話になりますが、裁判所から封書が届いて、内容を確認すると、名簿に載ったことを知らせるものでした。その後、裁判所に来ることになっても、当たることはないだろうと思っていました。そのような状況で抽選の結果を確認したのですが、抽選結果の発表については教習所の電光掲示板のようなものに番号が表示されるだけだったのですが、私たちの目の前で、抽選の結果が分かるような方法で抽選をしてほしかったです。たまたまだとは思いますが、私と後ろの番号の方が続いて選任されたりしていたので、もっとリアルに目の前で抽選の状況を確認できたら良かったと思いました。

司会者

1 番の方には、私が担当した裁判員裁判に参加していただいたわけですが、本当に真摯に事件に向き合っていたという印象です。審理の中では証拠として亡くなったお子さんの生前の写真があったかと思うのですが、その辺も含め、審理中もしくは審理後に心理的・精神的負担というのとはなかったですか。

1 番

そのくらいのお子さんが亡くなったんだなということは感じましたが、精神的負担というところまではいきませんでした。若い人のインターネット利用の状況という部分も審理の中で問題になっていて、今の時代、様々なことが起こりうるということを感じました。

2番

選任手続における抽選結果の発表について、1番の方もおっしゃっていたところなのですが、抽選の状況を直接確認できれば、抽選の結果についてももう少し納得できるのかな、と感じました。立会人がいる状況でコンピューターによる抽選を行っているとのことですので、抽選に作為はないと思うのですが、私が選ばれたときには、たまたま前の方の人が多く選任されて、後半の方は全く選任された方がいないという状況でしたので、抽選結果に納得いかないまま選任された感じでした。

選任手続の日は、今後の説明もあって、午後までかかったのですが、裁判や評議を行う場所等を案内してもらったり、実際に座る椅子に座らせてもらったり、これからどうするのかという辺りについて詳しく説明してもらえたので、気持ちに余裕ができました。

選任手続の日から実際の裁判の日まで二、三週間程度日にちがあったので、職場等との連絡もきちんとできましたし、休みを有給で取ることができましたので、仕事の面での負担は感じませんでした。

事件の性質の面でいうと、被害者が自分の娘と近い年代であることや、メール等が証拠として当たり前に使われているところから、交友関係で証人になられる方の関係が、赤裸々に語られていくことを感じました。事件に関わると、普段は隠せるような内容でも、100パーセント以上さらけださなくてはいけない、ということを感じました。隠したいこともさらけださなくてはいけないというのが裁判なんだなと実感しました。この辺りのことを身近な人にも伝えていかないといけないと感じました。

3番

頭の中ではたいしたことないと思っていたのですが、体の方は相当負担があったんだなと今は思っています。まだ薬を飲んでいるものですから。先ほど2番の方も言っていましたが、前の方の人だけが選任されていたんですね。後ろの方に座れば良かったと思ったりもしました。

「裁判員制度って終わったんじゃないの。」というようなことを言われたことがありまして、裁判所のホームページには裁判員制度について掲載がされているようですけれども、他の報道関係にも、裁判員制度が大事だということをもう少し広めてもらいたいと思います。

司会者

裁判員裁判に参加して良かったとお感じになりますか。

3番

テレビで裁判関係の報道を見たときに、裁判官の席の左右に席が6席あると、その事件が裁判員裁判の事件だと分かるようになりました。

司会者

他の方はいかがですか。裁判員裁判に参加して良かったかどうか。

1 番

とても勉強になりました。裁判のニュースを意識して見るようになりました。今までは興味がないというか、どういう事件なのかとかは考えなかったのですが、これはどれくらいの刑になるのだろうかとか、興味をもって裁判のニュースを見るようになりました。分からなかったことを勉強させていただき、いろいろな経験をさせてもらったことは、とても良かったと思っています。

司会者

2 番の方は、御主人にも通知が来たというような話でしたが、その辺りも含めていかがでしょうか。

2 番

通知が来た際、主人はお断りの回答をしたのですが、その回答を考えるにも、簡単に書くというのではなく、ドキドキしながら、一生のうちの大きな出来事であるように回答を考えている様子でした。

私に通知が来た際には、詳しいパンフレットをいただき、日程や私の予定等を尋ねる内容がいろいろ書かれていたのですが、断る理由がなくて、正直に記載をしました。実際に、裁判所に来てください、という書面が来たときは、本当に驚きました。そのことを職場で話題にしたら、書面が裁判所から来たんだけど、どう扱ったらよいか分からないので、そのままにしてある、というような人もいました。裁判員の選任関係の書類が裁判所から行くことがあるということをもっと広報していれば、届いた書面をそのままにしたりとか、ドキドキしながら記載をしなくて済むのではないかと感じました。

別の話になりますが、簡単に事を起こしてはいけないということを身近な人に強く言っていかなければいけないと感じました。私に関与した事件は、夜中に知らない男性の車に乗ってしまうということから事件が起きてしまっているのですが、先々のことを考えて行動していかないと、あなたもいつか事件に巻き込まれるということを、自分の身近な、仕事で関わっている人たちに対して言っていかななくてはならないと感じています。

6. これから裁判員になられる方へのメッセージ

司会者

ありがとうございます。身近で、裁判員候補者として裁判所に行くかどうか迷っている人がいたら、後押ししたいと思うかどうか、いかがでしょうか。

2番

私が裁判員に選ばれた話を職場でしたときには、すごく羨ましがる方がいまして、今日のこの意見交換会についても、羨ましい、行ってみたい、と言っていました。そのようにすごく興味を持っている方はいました。

一般には、通知が来ると怖いだらうな、ということで、周りにもこういった経験をさせてもらったことを随分アピールしたのですが、結構思った以上にやりがいがあるんだね、と言われることもありましたので、その辺りを広報でPRすると良いのではないかと思います。

司会者

一通りお話を伺ったところですが、その他、言っておきたいことはございますか。

(発言なし)

7. 法律関係者からの感想

司会者

それでは、法曹関係者の皆様に、裁判員経験者の方々のお話をお聴きしてどのような御感想をお持ちになったかを伺いたいと思います。

高山検察官

今回、裁判員経験者の方が参加されての裁判員裁判事件について、私自身が立ち会った事件はなかったのですが、私が経験している事件でも共通するであろうと思われる御意見を多く頂戴したので、もっとこうしたら良いという御意見についてはそのようにすべきだと思いますし、良かったと言ってくださった御意見については非常にありがたいと思いました。本日、皆様の話を聞いていて思ったのは、私たちがやっているものについて、できる限り分かりやすく、難しい言葉は使わないように気を付けているのですが、法律の定義であったりとか、どうしても使わなくてはいけない言葉もあったりして、少し四苦八苦しているところです。今日の話の中で、「被告人」という言葉は私たちにとって当たり前過ぎるように使っていますが、裁判員の方々からしてみると、それすらも難しい言葉なのだということが分かり、良い意味で刺激を受けました。今後、裁判員裁判を担当するときには、そのような細かなところから気を付けていきたいと思いました。本日はありがとうございました。

松倉弁護士

皆様がドキドキしながら裁判所に来ていたことを話されていましたが、私が弁

護士になって最初に裁判所に行ったときのことを思い出しました。皆様がそのようにドキドキした中で裁判に臨まれていることが分かりましたので、例えば、最初の冒頭陳述の入り方ですとか、そのようなところは特に平易な言葉を使ったり、ゆっくりと話すことが手続の中でも重要だと思いました。私は、本日御都合により欠席された裁判員経験者の方が担当された裁判員裁判事件を担当していて、その方にいろいろとお聞きしたいこともあり、それが聞けなかった点は残念でしたが、出席された裁判員経験者の皆様から貴重な御意見を頂戴しましたので、これを弁護士会に持ち帰り、今後の参考とさせていただきたいと思います。ただ、正確性と分かりやすさの両立が難しいというところがあるのですが、頂戴した御意見を参考にして励んでいきたいと思います。本日はありがとうございました。

小池裁判官

本日は貴重な御意見をありがとうございました。皆様がそれぞれドキドキしながら裁判所に来られて、胃が痛くなるような思いもしながら御参加いただき、皆様が真摯にそれぞれの事件に向き合っていたいただいたことは、本当にありがたいことだと思いました。いくつか頂戴した御指摘の中で、毎回出るお話ですが、量刑を決めると言っても、人の一生を決めるような話であり、負担と言いますか、非常に真剣に考えているという話がありました。そこは我々もきちんと受け止めて、皆様に納得してもらいながら、我々の説明について、話をかみ砕きながら進めなければと思いました。また、証人尋問の際に、何が大事なのか分からないまま進んで行ってしまったという御指摘がありましたけれども、そのようなことが起きないように、皆様の気持ちに寄り添って、分かりやすく、裁判を一緒に見ていただけるような工夫を今後も重ねていきたいと思います。本日の御意見は我々としても共有して、ますます裁判員裁判を改善できるように心がけたいと思います。本日はありがとうございました。

8. 報道機関からの質問

総務課長

それでは、本編の方はここで終了いたしまして、記者の皆さんから質問をしていただきます。まずは、幹事社から代表質問をお願いします。

宮城テレビ放送

裁判員を務めるに当たっては守秘義務というものがあるわけですが、実際に御家庭に帰られた後に、どこまで話をしてよいか迷ったことはありましたか。

司会者

それでは、2番の方からお願いいたします。

2番

守秘義務については何度も念を押されましたので、裁判員に選ばれたことは職場の上司と家族に話をしましたが、内容については極力言わないように我慢しました。やはり、自分の子供に近い年代の被害者ということもありましたし、たまたま、犯行現場が知っている場所ということもあり、自分の中でこだわってしまうときりがないなと思いましたので、なるべく裁判所の中で話し合ったことは裁判所の中でストップするというので気持ちを切り替えるようにして頑張りました。終わった後に裁判の結果をいただきましたが、「結論が出たものと報道されたものですので、お家に持って帰って結構です。」と言われましたが、それを大げさに見せるものでもないと思い、それは家族にだけ見せて終わりにしました。

1番

家族にも特に詳しい話はしなかったと思います。友人には、終わった後に、裁判員に選ばれたことや報道されているもの以外には、詳しい内容について話はありませんでしたが、こういう経験をさせてもらったと話しました。被告人のことをみんなで考えながら進められていくということをお話すると、友人は、普段生活していると裁判員になった人に遭遇することがないからと思いますが、「裁判員というのが裁判所から郵便で来るんだね。」と言っていました。友人には、「もし裁判員に当たったら、やってみたらいいよ。」と話しました。

3番

妻と兄弟くらいには話しましたが、それ以外には話ませんでした。裁判の内容については、ほとんど話さずに、裁判員に選ばれたことを話しました。終わってから書類をもらいましたが、それは封筒に入れたままにして、誰にも見せていません。

宮城テレビ放送

裁判員制度は市民感覚を取り入れるためということで始まったと思いますが、実際に皆様が裁判員裁判に参加されて、普段裁判に関わることがない立場として、関わらないからこそその視点を提供できたと思われることがありましたでしょうか。

司会者

裁判の中で自分の意見が反映されたと思いますかという質問ですね。

3番

私の場合、被害者の声が小さくて聞き取れなかった部分があったので、その後の評議の中で、他の人に聞きながら私は意見を述べたつもりです。ただ、やはり声が聞き取れなかったというのが残念であり、何かピンマイクのようなものを使用してもらおうと聞き取れたのではないかなと思いました。

1 番

市民感覚という点では、被告人が最終的にお金をどのくらい持っていたのかということとか、そういうことを伺ったと思います。なかなか経験することがないことですが、意見は言い合えたと思っています。

2 番

普段は関われない場所に関わっていく、つまり、裁判所というのは、実際に自分たちの生活に関係する事案が余りないということもあるのですが、裁判所の中に今回入ったことで、検察官、弁護士や裁判官の方々、事務をしている職員の方に接することができて、身近なのかなとすごく感じました。フレンドリーにはお付き合いできないなとは思っているのですが、そういうお仕事があって、そういうお仕事をされている方がいて、裁判が成り立っているということをしごく実感しました。

また、何日間か通うことによって、自分も余り裁判所という所には入りにくいと思っていたのですが、案外入りやすいのかなと思いましたし、関わっていただいた裁判官の方々から、とても気さくな感じで話しかけていただいたので、意見を交わすのであっても、裁判官が知識を高いところから話すということではなく、極力裁判員たちの意見を拾ってくださった上で、分かりやすく法律に当てはめて、「こういうことを話しているのですよ。」と説明していただいたので、裁判員裁判に関わってすごく良かったと思いました。すごく遠い存在だった法曹の仕事が身近に感じられました。先ほど、1 番の方がおっしゃっていましたが、いろいろなニュースとか刑事事件とかが報道された際には、報道されている以外にもいろいろなことがあるのだろうなと思うようになりました。

東日本放送

今回、裁判員裁判に参加して、審理、判決、量刑を出す辺り、十分な審理が尽くされたというようにお感じかどうか、それとも、もう少し日数があつたら良かったのとか、日数があつたら良かったけれども自分の体力的に辛いとか、思うところがありましたらお聞かせ願います。

3 番

私の場合には、裁判所まで片道50キロメートルほどを車で来ていたものですから、その負担が大きかったです。その他に苦しいことはなかったです。判決までの日数は妥当なものだと感じました。

1 番

審理や判決は、十分に話し合っただけで決められたもので、時間的には十分だったと思います。また、こまめに休憩を取っていただいたりとか、配慮していただいたので、体力的に大変だったということはないと思います。

2番

私の審理日数は、判決を出すために苦慮することはなかったと思います。特に、3番さんや1番さんもお話ししていましたが、いろいろな意味でのフォローがされていました。本当に休憩もこまめでしたし、いろいろな言葉についても説明していただきました。

また、体力的にも疲れないように、「今日はここで終わるので早めにお帰りください。」というように細かい配慮をしていただきました。話合いのときにも、十分に細かく細かく突き詰めていただきましたし、結論を出すときにも、細かい言葉遣いにも私たちの意向を聞いていただきましたので、私が関わったものについては十分に満足しています。

東日本放送

判決、量刑を出すのが皆様の役割であると思いますが、審理を進めていく上で、例えば、私の感覚だと懲役6年だったけど、今の話を聞いたら8年にしようかなといった、最終的なゴールとして、懲役刑をいくらにするかということが頭をよぎって、目の前の行われている審理にうまく集中できないといいますか、考える順番の話なのですが、裁判員裁判で裁判員の方々がどういうふうに順序立てて考えていらっしゃるのか、その辺りをお聞かせいただければと思います。

3番

判決につきましては、考え方に個人差があり、十分に話合いがされたところでは。

1番

審理を進める中で、先に刑を考えてということはなかったと思います。審理を進めながら、最終的に量刑をどのようにするかということをみんなで話し合っていました。

2番

私の案件は、無罪か有罪かが争われた事案でしたが、事実と証拠を考えながら、結審の辺りから量刑についてみんなで話し合っていたと思います。それで、実際に量刑を決めるときに、先ほどもお話がありましたように、量刑を話し合うための検索システムが出てきて、ここで初めて量刑について意識し始めて、皆さんからいろいろな意見が交わされました。ですから、皆さんが最初から量刑を意識して話をされていたということはありませんでした。

河北新報社

私が青森で勤務していたときに、傷害致死事件取材しました。その事件では、検察官が証拠として凄惨な写真を提出したのですが、裁判員がこれを見られないということがありました。皆さんが関わった裁判員裁判で、証拠として見ること

が厳しい証拠があったかどうか、精神的に負担があったかどうかを教えてください。また、そういう証拠がなくても精神的に負担だったところがあれば教えてください。お願いします。

2番

確かに性犯罪ということで局部の写真が出されたりしましたが、人間の体の一部ですし、自分たちが持っているものが出されたといえば変ですが、どうしてそこまでしてその写真を撮らなければいけなかったのかとか、あくまで証拠としてとしか見ることができなかつたので、厳しいものはなかつたと思っています。また、そういう見て苦しさを感じるような証拠はなかつたと思っているので、私としては苦しさを感じることはありませんでした。

1番

証拠として、何か写真が出て、それを見ることができなかつたというものはなかつたと思います。ただ、亡くなった子供の生前の写真が出ましたので、母親に似ているのかな、誰と似ているのかなというようなことは思いました。私が担当した事件は死に関わる事件でしたが、現場の写真はありましたけれども、精神的な負担も特に感じませんでした。

3番

局部の写真が目の前のモニターに映し出されたのですが、そこまで出すのかなと思って驚いたことです。

総務課長

他に質問はないようですので、報道機関の方からの質問については終了させていただきます。

司会者

それでは、時間も参りましたので、今日の裁判員経験者の意見交換会は、これで終了とさせていただきます。

参加者の皆様方には、たくさんの貴重な御意見をいただきましてありがとうございました。

以 上